

授業の感想 5月12・19日 東根のさくらんぼ①

子どもたちが書いたものをまとめて長編になった資料は、とても凄いと
思いました。これは、教員がすぐに答えを教えなかったからこそ、子ども
たちが疑問に思い、興味を示しながら調べることができたと思います。さら
に、身近な問題のため、地域の人から直接聞いたり、自分の目で見て考
えたりすることは、とても良い経験になったと思えました。

まず、自分たちの町について考え、何を知りたいのかを把握する。今回
は、それでさくらんぼになっていました。そのさくらんぼは、今どのよう
な状況にいるのか、そして、なぜそのようになったのか自分たちで調べま
した。ネットなどを使うのではなく、時間をかけてみんなで考えていくの
は良い経験になったと思います。

地域の人との交流が薄くなってきている今、このような課題は、とても
良かったと思います。自分たちで調べて答えを出すということを大切に、
覚えるだけが勉強ではないと子どもたちに教えたいです。

授業とは、こういうものという意識……「授業観」と言いますが、子どもだ
ってそれを無意識のうちに持っています。

授業者が教える「教え方」とそこで子どもが身につける「学び方」
学習内容の伝達という面だけでは表せない世界です。

自分たちで調べて答えを出すということを大切に、覚えるだけが勉強ではな
いと子どもたちに教えたいです。】

そうなのです。

そのために、私は、子どもたちの疑問、そして、調べる意欲を大切にしたい
と思っています。

地域の学習で、さくらんぼに関しての授業方法と流れをみました。

沼澤先生の授業は、最後に疑問をあえて残すことで、子どもたちの探究
心を刺激し、子どもたち自ら調べてくる環境ができるのは良いなと思いま
した。また、子どもたちが、おじいちゃん、おばあちゃん、両親に聞くこ
とでコミュニケーション材料になり、家族関係が良好になるというサイク
ルができる。

日記は、授業回数を重ねていくうちに、より詳しく文章量も多くなって
いる。その文章を書かせる工夫として、ひらがなを使っても、字が汚くて
もいとハードルを下げてあげることで文章が増え、学級通信にそのまま

載せることで漢字を意識して書くようになるというのを聞いて、すごいと
思いました。

社会の学習は、他教科と関連づけやすく、広く学べる教科だと改めて感
じました。

授業の最後に疑問を残して開いて終える授業形態をオープンエンドといいま
す。私は、ずっとこの形態の授業を行ってきました。

これに対して、授業の最後で本時の内容をしっかりまとめて終える授業形態
をクローズドエンドといいます。

多くの授業は、後者の形態をとっています。

【子どもたちの探究心を刺激し、子どもたち自ら調べてくる環境ができるのは
良いな】

そう思うでしょう。そうなのですよ。でも、授業を開いて終えるためには、
様々な工夫が必要となってくるのです。これからの講義の中で説明していま
すね。

1つの地域教材で、こんなにも深い所まで様々な社会的要素（歴史や気
候、土地など）を含めながら学ぶことができる。私は、このような所に対
しても、**地域教材の魅力**というのを感じました。

生徒たちにとっても、身近な人に聞くことができる上に、地域教材は身
近なものが多いため、見学をしに行きやすいと思います。そのため、生徒
自身も調べやすいと思っただけで、わざと疑問を残すことにより、子どもた
ちの探究心をくすぶることができ、上手に自主学習へと発展させられると思
いました。子どもたちが調べてきたものを授業に活かすも殺すも全て教師
次第。ただ単に疑問を残すのではなく、「もっと知りたい！」と思わせら
れるようなものにしなければ、上手に授業展開をしていくことは難しい
かなとも思いました。

みんなが授業に参加しやすい環境づくり。これが普段からできているか
どうかで、同じ授業をしていても全く違うものになると思いました。また、
沼澤先生のように普段から生徒たちに日記のようなものを書かせることによ
って、このような授業の時にそれが生きてくるのかなとも思いました。
発言が苦手な人でも、そのようなノートに良いことが書かれていれば、教
師がそれを促すこともできるし、生徒一人一人の良い意見をなるべく逃が
さぬようにできる対策の1つにもなると思いました。

生徒同士の意見交換は、とても良い刺激になるし、先生が上手に方向性
をつかってあげることで、生徒主体の授業にできることが、この授業の魅
力でもあったと思いました。

3・4年生の社会科は、市・県を扱う内容が多いため、地域教材の魅力を、

子どもたちと一緒にたっぷり実感することができます。

内容を通して、学び方を習得する（つまりは、そうした授業観を身に付ける）ことができる大切な時期です。

【子どもたちが調べてきたものを授業に活かすも殺すも全て教師次第。】

教室の中で唯一人の大人として、授業者として、強く感じていかなければならないことです。

子どもに「教える」ことよりも、子どもから「引き出す」ことを通して、子どもと教材を、子どもと子ども同士を繋げていくのです。

ただ単に疑問を残すという形式ではなく、「もっと知りたい！」と思わせられるようなものにするの難しさに気づいたのはすごいです。

難しいから、だから、簡単に答えを教えてしまい「先生はすごい」ということで終わらせてしまうことになるのですよね。

社会科の授業はどのように進めれば子どもたちが暗記しようとしなくても自ら学ぼうとして学習できるか知ることができた。山形に住んでいる子どもたちは、さくらんぼは身近な特産物だから詳しく知ろうとは、なにかきっかけがないと思わないけど、授業で取り上げることによって、自分たちが住んでいる土地の地形や気候がわかったり、地域の人から直接話を聞けるのは、ためになるなと思った。「**さくらんぼは、こうなら、他のものはどうだろう。**」などと、子どもたちの好奇心をゆさぶるきっかけにもなると思った。「さくらんぼ」という1つの物でも、多くのことを学べるので、地元のことを学ぶ単元は大切だと感じた。

沼澤先生の授業は、**？で終わらせる**という方法は、とてもいいなと思った。授業が終わっても、授業でやったことが子どもたちの中に残って、疑問を持ち、それを解決しようと自ら調べ、やっとなら解決したら、それは教えられたことよりも記憶に残ると思う。

さくらんぼを教えるのではなく

さくらんぼを通して、ものの見方・考え方を身に付けさせるのです。

「さくらんぼは、こうなら、他のものはどうだろう。」という見方ができるようにするということですね。

自ら学ぼうとして学習させることができれば、暗記を強いる必要はありません。さくらんぼを教えようとするから暗記の量で評価することになってしまうのですね。

子ども達が調べてくる資料は、どれも一人一人の個性が出ているなと思いました。また、自分が調べたことに関して、どんどん新たな疑問を持ち、**得た知識から予想を立てる**まで出来ていることに、とても驚きました。自由に調べたり、考えたりする方が、子どもの探究心は活発になるのかなと

思いました。改めて、学習するのは生徒たちで、教師はサポートする側だと実感しました。

家の人や役場の人に自分で聞いたりすることで、学んだことを忘れずにいられるのだと思いました。

調べたことで終わってしまっただけでは、結局は答え探しになってしまいます。

（コンピュータにはかきません。）

そこから新たな疑問を持つことができ、知識を使って予想すること・考えることができれば最高です。（だからコンピュータを創ることができたのです）知識は、ゴールではなくて、利用する道具にしなければなりません。

今回、小学4年生の郷土を開くという授業の内容を見て、さくらんぼという題材からどう学びにつなげていくのか疑問でした。しかし、授業が進んでいくにつれて、**子供達のなぜ？という疑問**が増え、それにともなって子供達の調べることや文章量が目に見えて増えていたのがすごいと思いました。私が小学校4年生の時だったら、こんなに多くの文章は書けないなと思いました。

さらに驚いたことは、授業後の子供達の追求のところで、なぜさくらんぼを植えている土地が広くなったのに、さくらんぼの収穫量が減ったのかという疑問に対して、生徒達の過半数は天気が悪くなったから、環境が悪くなったからなどの答えがほとんどの中、一人の生徒は昔は大きさよりも量だったからという意志を曲げなかったということに感動しました。普通の子だったら多数決の人数が多い方に考え方が寄っていきそうですが、自分の意志をしっかりと持っていれば、自分の意見をしっかりと伝えるのだらうと思いました。大人でも自分の意志をしっかりと伝える人は少ないと思うので、その一人の子の意志の強さのようなものを見ることができました。

さくらんぼについて調べていくという単純な内容にもかかわらず、子供達の成長が目に見える授業の展開の仕方がとても勉強になりました。そして、**生徒達が自分でどんどん調べていくように仕向けることは、生徒と先生にとってもとても楽しく授業ができる理由**なのかなと思いました。

自分の考えを最後まで主張した【一人の生徒】は、大きく成長しました。

その彼女の姿から多くの子どもが学びました。

だから、クラス全体が変わっていきます。

教室で一緒に学ぶということは、こうした成長ができるということです。

教師がことばでどんなに上手に教えても、彼女の姿には勝てません。

「楽しい授業」とは、こうした事実が積み重なってできていくものだと思います。決して、表面上の面白さではありません。

授業の感想 5月12・19日 東根のさくらんぼ🍎

今回、私達は4年生の授業内容「郷土を開く」をテーマに「東根のさくらんぼ」についての子ども達の感想を読みました。

全体的に見てみると、とても驚きがかくせませんでした。まず、小学校4年生がとても多くの文字数を書いているのに驚きました。私が小学校4年生のときは、長く文章を書くことが嫌いでした。しかし、この本にのっている子ども達の文章は、ひらがなが多いのですが、文章が長く書かれていました。たしかに、漢字を書くよりもひらがなで文章を書くことによって、スムーズに文章を書くことができ、子ども達も思った通りのことを書くことができます。かなり効率の良い方法だと思いました。

また、個人個人を見ていくと、数字やグラフをもちいて文章を書いている子ども達もいました。文章だけで書いただけだと確証が低いと大学のレポートで言われたことがありました。しかし、小学校4年生の子ども達は、具体例や数字を使い、間違っていたとしても自分の意見を書いていたことにとっても感心しました。

小学生の子ども達の中には、みんなの前で発表することができない子どもがたくさんいますが、どうやって自分の意見を言えるようになるか、しっかり先生が工夫して対処していかなくてははいけません。私達が先生になったときに、子ども達のことを考えて、自分達の意見が言い合えるようなクラス担任になりたいです。

【自分達の意見が言い合えるようなクラス担任になりたいです。】

私もず～～～っとそう思ってきました。

私の20年来の研究テーマは、

「子ども同士の温かいつながりは、学力を高める」というものでした。ある面、無茶苦茶ですが、真実だと思っています。

ていねいな美しい字で書かせたいということ（表記）よりも、思いの丈を一気に書かせたいということ（内面）を大切にしていあげることの方が良い場合が多いと思います。

東根のさくらんぼでは、子どもの気付きのサポートをする際の手段が明確に分かりました。それは、学校の生活だけでなく学校以外の生活、家庭生活の様子等を知っているうえでしか分からない子どもの考えの変化があるということや、その気付きを授業にくっつけることによって「自分の考

えが使われている」と子どもが実感できて、もっと自ら子どもの方から教材を持ってくるというような今後の授業にとってプラスのサイクルが生まれ、かつ、子どものやる気につながれるということだと思います。

そして、地域教材を取り扱う際には地域の方々との連携によって子どもの理解が深まるだけでなく、親戚、近所間の「ありがとうのつながり」が生まれるので、積極的に地域の方々に頼っていくべきだと思いました。また、普段の座学では関わらないクラスメイトとも関わることもなって新しいつながりが生まれているのも面白かったです。

「自分の考えが使われている」 自分が授業を動かしている

= 佐伯^{ゆたか}氏の言う「自己原因生」

を持った子どもは、やる気が高まりどんどん前向きになって行きます。

【その気付きを授業にくっつける】ために、【学校以外の生活、家庭生活の様子等を知っているうえでしか分からない子どもの考えの変化】に気付く教師の目が大切です。鍛えていかなければなりません。

「ありがとうのつながり」は、すべてを変えていきます。

全12時間という長きにわたる社会科の授業「郷土を開く」の単元は、生徒たちにとって、かなり味のあるものになったのではないかと思います。自分の住んでいる地域・県について学習するのだから生徒は意欲を高められるし、何より題材がなじみやすい。より興味をそそられやすいので、生徒の関心も高まったのではないかと思います。

授業毎に疑問点を残していくのには驚きました。そこで完結するのではなく、生徒に自主的に調査させてこようとする工夫だと分かり、なるほど探究心はこうして育てていくのかと深く納得しました。同時に、共同追求というエネルギーが学級集団を高め、ひいては個人の「生きる力」促進へとつながっていく。

集団の前では畏縮してしまう子も、そうでない子も、共に市役所で実際のお話をきいてくるといった共同追求により、友人に、そして、学習に深みが増す。学び合う集団が個を高めるのだと深く理解できました。

そして、徐々に疑問点を解決していき、最後の11・12時間で、実際にさくらんぼ農家の方にお話をきいたことで、生徒たちは疑問の残ることなく、自分の住む地域の名産品について深く知り得ることができたので、生徒たちの満足感はとても満ち足りているのではないのでしょうか。生徒たちも共同追求の重要さが分かったのだと思います。

「共同追求」という言葉・視点がすごいです。

同じ方向を向いているけれど、調べ方や見方はそれぞれ違って、それを交流することによって、違いから見えてくるものがあるということ。

それを学ぶことが授業であるということ。
教室でみんなで授業をするということは、そういうことなのですね。

この資料では、東根で有名な物について子ども達に尋ねていました。初めは、なぜこのようなことを尋ねるのかと疑問に思い、考えていると、身近な人に聞けるということが分かりました。

ここでは、東根で一番有名な「さくらんぼ」について、家庭や親せきの人との会話をもとにして発表を行っていました。一人一人の発表内容を見ると、同じことを調べているのに考え方や書いてある内容がそれぞれ違うので面白いと思いました。また、子ども達に自分の地域や都市で有名なものなどを調べさせることは、子ども達にとって興味がわいたり、調べたことによって知らないことが知ることができるので、新しい知識を学ぶことができると思いました。

その違いが、個性であり、その子らしさなのだと思います。

そうしたその子らしさから生まれた「ことば」「表現」「追究」を簡単に教師が大人の自分の言葉で言い換えてしまうことは、その子らしさを消してしまうことになってしまいます。

違いを面白いと思えることは、すばらしいことです。

地域教材の良いところである「身近な人に訊ける」「見に行ける」に加えて「市役所に聞きに行くことができる。」という最大の長所があるため、みんなが大人の人に訊きに行って、きちんとした情報を入手することができるのが良いと思いました。苦手意識を持たせないようにするために絵をかかせたり、話し言葉で書かせたり、字が汚くてもいいからとにかく思ったことを書かせるという点でも、とても参考になりました。

ナポレオンからさとうにしきに品種が移ったり、さとうにしきはナポレオンがないとはんしょくできないということもおどろきすぎだし、ナポレオンはジャムにする、かんづめにするなどという加工して食べているのに対して、さとうにしきは高級品でそのまま食べていたというのが、違いがきちんとでていて教材として最適なのだということもすごいと思いました。他のさくらんぼについては、生徒たちが調べてきたことを発表させると子どもも喜ぶというのもいいなと思いました。

一通りさくらんぼについて調べ上げた後で、表や円グラフ、折れ線グラフを読み取らせて、というふうに段階を踏ませることが大切だということも分かりました。

さとうにしきの生産者の家にほうもんでできるという点が地域ならではのすてきだと思いました。生産が増えても(%)量(kg)はへっている理由も市役所に聞くことができてせいはいがすぐに導き出せるのは……

大学生のみなさんには、グラフだけを提示しても、それだけで考えることができました。でも、小学生には難しいです。ある程度の情報がないと読み取ることができません。(読み取ろうとする意欲も高まりません)

【段階を踏ませること】が大切なのですね。

小学生は、まず意欲を高めることが大切だと思います。そして、疑問を追究させていきます。

大学生のみなさんには、まず疑問を捉えさせれば、追究は自分で行えます。
※【教材として】という視点から物を見ることができると、いろんな物がいろんなふうに見えてきますよ！ (楽しい人生を送れます)

今回の授業の内容は、よくニュースなどで見かけたりしていた内容でしたが、あまりよく知らない情報が多かったです。

多くの知らない情報全てを子どもの力で集め、それをもとに子どもたちで答える話し合いで導くために、先生はその意欲を上げてあげないといけないと感じました。

そのために、答えを与えずに疑問を与え、考える力、自分の足で行動して資料やヒントを持ち帰る体験が子どもの大きな成長になると思います。

自分の日記に書いたことが授業内に出て、発表するのも子どもはとてうれしく感じるだろうし、人前で考えを言葉にする力、他の子の意見を聞き、自分の考えをまとめるなど、多くの力がつく授業だと思いました。

家族、親せきが農家であったり、市役所が近くにあるという良い環境にめぐまれていると感じました。

別の条件下でも子どもたちにどう学ばせるかを考えることができるようにならないといけないと思いました。

学ぼうとする意欲を高めること

それが、すべてのスタートのように思えます。

指示通りに子どもを動かし、教師の目標が達成できることよりも大切だと思います。(勿論、そうした方法が適した学習内容もあります。)

子どもの自主的な活動を導き出し、その活動の中から気づき・学びを生み、それを引き出し、つなげて、価値づけることの方が、長い目で子どもの成長を考えた時には、良いと思います。

さくらんぼを詳しく教えるのではなく

さくらんぼを教材とすることを通して郷土を開いてきた人々の存在から「先人たちが、地域の人々の生活を向上させるために、強い願いを持って地域の開発や発展への努力を現在まで積み上げてきたこと理解し、地域社会への愛情を持つ。」ことが分かればいいのです。 **学習指導要領 目標(2)、(3)/内容(5)一ウ**